

市

民

の

声



知覧町 郡

深田 豊秋

じいちゃん
ばあちゃんから子へ

「核家族」という言葉を耳にするようになって久しい。戦後の日本が高度成長という道を歩んできた結果生じた世相の一面でしょう。そしてこれが、世界に誇ってきた「日本人の心」を失ってしまった一因になっているように思います。

二、三代目が一緒に暮らしていた頃は、子育てから開放された親が自分の子と孫のかかわり合いに接した時は、「こんな時自分はどういうにしているのか、その結果はどう

なっているか」を冷静に振り返り、自分の失敗を子が繰り返さないようアドバイスしてくれました。

また、親になった子の相談相手でもありました。核家族化とは子が親の失敗から学ぶ機会を失い、その結果、心の停滞を招いている原因の一つになっているのではないかと思います。

子育て時代の自分を振り返り、今にして思い当たることを娘に伝えてきました。それらが娘の役に立っているようです。

日本は人だけが資源だと言いつつ、毎日が人の指示通りにしか動かないロボットのように動かないのか。子ども達に関する施策の中に子育て世代とその親たちが交流し、互いに学び合う場を作りたいものだと思う昨今です。



頤娃町 別府

崔 惠里香

帰りたいくなる故郷に

中学生まで頤娃町で育ち、色々な都市を転々としながら、就学、就職、結婚、出産を経験し、今度は自分が親となって13年ぶりに生まれ育った町に帰ってきました。元々都会で育った主人が「農業をしたい」と言ってくれたからです。そう言ってくれた主人には感謝ですが、正直、地元に戻ることにためらった自分もいました。

やはり最初に頭に浮かぶのは、子どもが急に病気になるのなら？近くに公園や安心して遊べる場所

はあるか？また、子どもを預けられるようになるか？たら働く場所はあるか？など、様々なことが頭を過りました。

もう少し交通の便が良く、あるいは商業施設が充実しているなど、便利な暮らしができればもっと安心して帰って来られるのになと思います。

私のように地元を離れ都会に出た人が「地元に戻って暮らそう」と思った時に、家族や子どものことを考えるのは当然のことです、安心してついでに帰れる環境があればなお良いのではないのでしょうか。

もちろん、農業や自然など田舎の良さは大いに残して欲しいと思います。

私たちのような子育て世帯が地元に戻ってきたくなるような町づくりについてもぜひ話し合っていたいただきたいと思います。

議会中継に向け 先進地を調査

本市議会は、市民の負担にこたえ、開かれた議会を実現するため、行動原則として議会基本条例を制定しております。

議会運営委員会は、開かれた議会の実現と実践を目指し、委員長ほか6名の委員で、5月15日から17日、西脇市、丹波市、福知山市において、議会中継の取り組み状況やシステム概要など、議会中継に向けて調査しました。

調査結果及び委員会の方針を全員協議会に報告し、議会として平成27年度から議会中継に取り組むことを確認しました。



編集後記

朝夕めっきり涼しくなり、田畑では収穫の秋となりました。

今年の天候は不安定で農作物の作柄は悪く、また、本市特産のお茶の価格も低調で、市民の生活にも活気が見られない。

このような沈滞した時期、日本全国、特に南九州市にとって明るいニュースが報じられた。知覧出身で名城大学終身教授のノーベル賞授与である。赤崎勇先生は「諦めない心」で研究を続け、青色発光ダイオードを開発された。

大先輩を誇りに思い、我々も信念を持って市政に取り組み、市民目線の議会運営に努めたい。

(塗木)

▼広報編集委員会

委員長 西 次雄
副委員長 吉永 賢三
委員 塗木 弘幸
松久保正毅
蔵元 慎一
内園知恵子